

報道関係各位

飯	能	市
記	者	発
表	資	料
令	和	3
年	5	月
2	8	日

## 件名 飯能市GIGAスクールの進捗状況について

### 1 概要

飯能市では昨年9月に、県内最速で市内公立小・中学校の全児童生徒に学習用タブレットを整備し、「学びの改革」への挑戦を本格的に開始いたしました。導入から9カ月を経過しようとしている現在、学習用タブレットの活用状況を中心に、飯能市GIGAスクールの進捗状況を報告いたします。

### 2 内容

#### (1) 「学びの改革」を推進するツールとしての学習用タブレットの活用

##### ① 創造的・探究的・協同的な学びの推進

ペアや3～4人のグループ、学級全体で、学習用タブレットを活用することにより一瞬で考えを共有することができ、短縮した分を焦点化した学び合いや更なる探究の時間に用いることができます。また、これまでは教師が児童生徒に紙媒体で配付していた写真などの学習資料も、カラーで、しかも一瞬で児童生徒に配付することができ、より効果的な学習資料となっています。

学習用タブレットには、これらの活動をサポートし、思考力の育成を支援するアプリが入っており、各学校で活用しています。

このように、学習用タブレットをコミュニケーションツールとして活用することにより、小学校では45分、中学校では50分という、限られた1授業時間を、学び合いや思考の時間により多く充てることができます。



グループでの学び合い



シンキングツールによる思考の整理

## ② 情報活用能力や問題解決能力の育成

学習用タブレットを活用することにより、いつでもどこでも即座に調べることができます。特に、本市で導入した学習用タブレットはLTE型であるため、学校から地域に出て学習する時、「水と緑の学習」で地域の森林や川で学習をする時、社会科見学で施設を訪問する時など、あらゆる学習場面で活用することができます。

校外学習で実際に見聞きしてきたことは、学校に戻って再構成したうえで、更に調べ、考え、学び合い、問題解決を深めたり派生させたりしながら学習を深めていきます。従来は記憶やメモを頼りに再構成していましたが、学習用タブレットの写真、動画機能等を使うことにより、再構成が容易になり、問題解決や学習を深めるためにより多くの時間を充てるできるようになりました。



水と緑の学習



社会科見学

## ③ 技能系教科における技能の向上

児童生徒が相互に学習用タブレットで写真や動画を撮影し、自身の技能を振り返り、改善点を見つけ出すことで、技能を向上させることができるようになりました。

また、緊急事態宣言の発令等により、音楽で楽器の演奏、合奏ができなかった時には、楽器演奏アプリを使って演奏、合奏した学校もありました。



体育(マット運動、グループでの学び合い)



音楽(楽器演奏アプリを使った演奏)

## (2) 学びの保障に向けた学習用タブレットの活用

本市では、公立小・中学校の全学級に、時間無制限、300台まで接続可能なテレビ会議システム（Zoom）を整備しています。今後の感染拡大と、万が一の休校措置等に備え、テレビ会議システムを活用し、児童生徒が家庭にいる状態で全ての学級で対話的なりモット授業ができるよう、準備を進めています。

また、感染拡大の防止等を理由として、学校を欠席し家庭にいる児童生徒が、テレビ会議システムを活用して授業にオンラインで参加する取組も始まっています。今後、登校しても教室で学習できない児童生徒や教育センターの適応指導教室に通う生徒が、教室の授業にオンラインで参加できるよう検討してまいります。

さらに、学習用タブレットを活用した児童生徒の学習状況の把握について研究してまいります。

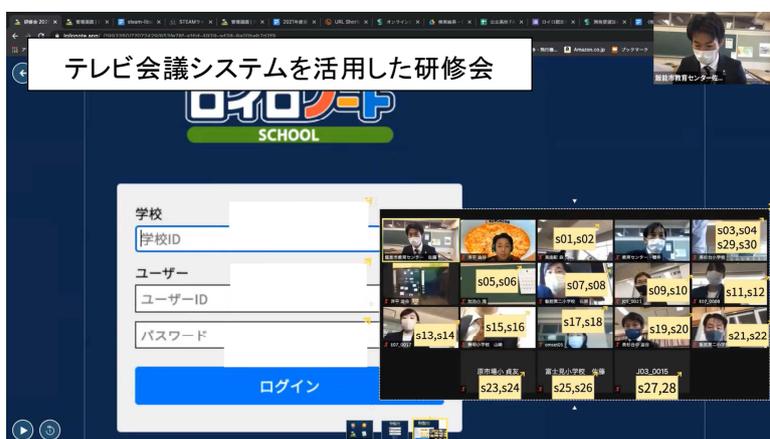


## (3) 教職員の負担軽減の促進

校務支援システムや学習用タブレットを活用することにより、大きく分けて二つの方法で、教職員の働き方改革を目指しています。

一つ目は、学習用タブレットを活用したペーパーレス化です。①学習用資料を児童生徒に配信する、②教職員の会議や研修用資料を教職員間で配信する、③学校から家庭へ配布物を配信するなど、これまでは印刷、配付していたものを学習用タブレットの配信機能を使用することにより、業務の大幅な短時間化を図ることができます。

二つ目は、テレビ会議システムを活用することによる集合研修や出張の削減です。集合研修や出張をオンラインで行うことにより、研修や会議が行われる場所への行き来の時間を削減することができます。



#### (4) その他の活用方法



#### (5) 視察受け入れ、研究委嘱等について

① 埼玉県教育委員会、県内各市町村からの視察受け入れ

埼玉県教育委員会 高田直芳教育長（令和2年9月15日（火））をはじめ、県内外の多くの市町村から視察の申し込みがあり、市内小・中学校で受け入れています。

奥武蔵小・中学校の様子をご覧になった高田教育長からは、飯能市 GIGA スクールは最先端であり、県全体に取組を広めて欲しいと依頼を受けています。

② 埼玉県教育委員会からの情報活用能力育成推進事業委嘱

昨年、埼玉県教育委員会から本市へ、2年間の情報活用能力育成推進事業の研究委嘱があり、本市では、学習用タブレットを先行導入した奥武蔵小・中学校を研究指定校といたしました。奥武蔵小・中学校では、10月末に、県内市町村に向けて研究成果を発表する予定です。

③ 埼玉県学力・学習状況調査のCBT化に向けた試行調査の受け入れ

埼玉県教育委員会は、GIGAスクール構想の進展を踏まえ、同調査の紙媒体からタブレット等による調査への移行（CBT化：Computer Based Testing）を計画し、飯能市を含む県内4市に試行調査実施依頼をしました。本市では、加治小学校と飯能第一中学校を試行調査実施校に指定し、両校では9月に学習用タブレットを活用したCBT調査を実施する予定です。

なお、埼玉県教育委員会は、5月14日（金）に「埼玉県学力・学習状況調査のCBT化に向けた試行調査について」を報道し、本市並びに両校の名前を発表しました。

担当者	学校教育課長 西條 誠
連絡先	Tel042-973-3018